

活動実績	
活動期間	①令和４年３月 ②令和４年５～６月 ③令和５年２～３月
地域	北海道阿寒郡鶴居村
対策の種類 ※該当に✓を記入	☐ 捕獲手法 ☐ 侵入防止技術 ☒ 周辺環境整備 ☒ 地域合意形成 ☐ 野生動物管理（生息調査含む） ☐ 処理（焼却・減容化） ☐ その他（ ）
対象獣種 ※該当に✓を記入	☐ シカ ☐ イノシシ ☐ サル ☒ クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ☐ ハクビシン ☐ アライグマ ☐ アナグマ ☐ カラス ☐ カモ ☐ ヒヨドリ ☐ スズメ ☐ ムクドリ ☐ その他鳥獣（ ）
活動の内容	ヒグマの生息域が隣接する地域において、ヒグマとの不慮の遭遇を避けるために、出没情報などの情報提供を行うとともに、住民自らができる被害対策について、客観的な事実に基づき、学習会を実施した。 また、学習会に参加しなかった地域住民に対しても、IP放送を用いて、ヒグマ出没の未然防止に関する情報提供を実施した。

活動実績	
活動期間	令和３年１１月～現在まで
地域	北海道阿寒郡鶴居村
対策の種類 ※該当に✓を記入	☒ 捕獲手法 ☐ 侵入防止技術 ☐ 周辺環境整備 ☐ 地域合意形成 ☒ 野生動物管理（生息調査含む） ☐ 処理（焼却・減容化） ☐ その他（ ）
対象獣種 ※該当に✓を記入	☒ シカ ☐ イノシシ ☐ サル ☐ クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ☐ ハクビシン ☐ アライグマ ☐ アナグマ ☒ カラス ☐ カモ ☐ ヒヨドリ ☐ スズメ ☐ ムクドリ ☒ その他鳥獣（ キツネ、タヌキ ）
活動の内容	酪農業を営む農家に対して、捕獲、防除、生息環境管理のうちから、被害農家の要望を取入れつつ、対象鳥獣ごとに被害低減効果の見込める手法を選択して実施した。エゾシカについては、被害品目に応じて、銃、くくりわな、囲いわから最適な手法を選択した。特に銃とくくりわなについては、効率的な捕獲となるように試験的な捕獲を同時に実施した。カラスについては、調査によりねぐらを特定し、静観するか追払いをするか選択した。キツネとタヌキについては、農場に住み着いた個体に対して、箱わなによる排除を選択した。
活動期間	令和４年４月～現在まで
地域	北海道阿寒郡鶴居村
対策の種類 ※該当に✓を記入	☐ 捕獲手法 ☒ 侵入防止技術 ☐ 周辺環境整備 ☒ 地域合意形成 ☒ 野生動物管理（生息調査含む） ☐ 処理（焼却・減容化） ☒ その他（ ）
対象獣種 ※該当に✓を記入	☒ シカ ☐ イノシシ ☐ サル ☒ クマ（ツキノワグマ・ヒグマ） ☐ ハクビシン ☐ アライグマ ☐ アナグマ ☐ カラス ☐ カモ ☐ ヒヨドリ ☐ スズメ ☐ ムクドリ ☐ その他鳥獣（ ）
活動の内容	酪農業を営む農家が乳牛用飼料として自給生産する牧草地や飼料用とうもろこし畑で発生するエゾシカ被害とヒグマ被害において、調査によって集めた事実やデータに基づき、助言や指導を行った。エゾシカ被害は、牧草被害量の推定調査を行い、防除策の導入における費用対効果を明らかにし、電気柵等の導入に関する意思決定を支援するとともに、正しい電気柵の管理方法に関して普及活動を行った。ヒグマ被害は、ドローンを用いて圃場全体の被害の経過観察を行い、捕獲による排除を優先するか、既存の防除策の強化を優先するかといった、被害状況に応じた対策を被害農家に寄り添って選択した。